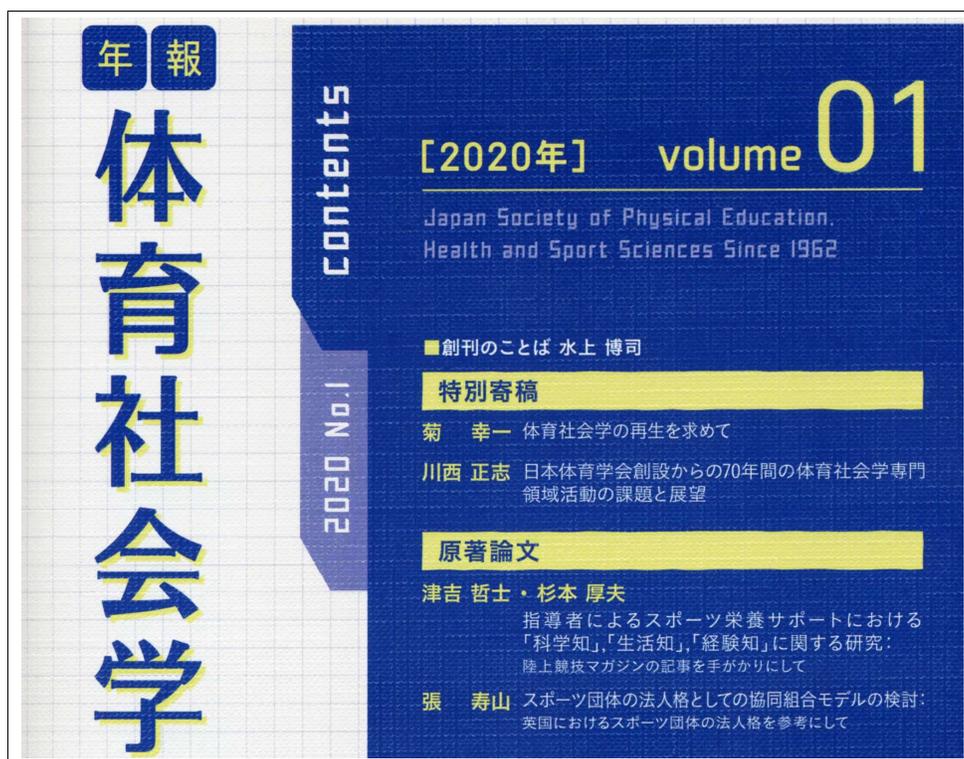


News Letter

2020
Autumn issue

令和2年10月7日発行

*Japan Society of Physical Education, Health and Sport Sciences
Division of Sociology of Physical Education and Sport*



日本体育学会
体育社会学専門領域

事務局：〒270-1695
千葉県印西市平賀学園台 1-1
順天堂大学スポーツ健康科学部
黒須充研究室内
TEL: 0476-98-1001 (代表)
E-mail: mkurosu@juntendo.ac.jp

< 目 次 >

2020 横浜スポーツ学術会議内容……………1
「年報 体育社会学 第1号(2020)」の 発行について……………2
「年報 体育社会学 第2号(2021)」の 原稿募集について……………2
応用(領域横断)研究部の設置について…3
研究委員会企画の研究会について……………5
評議員選挙について……………6
事務局より……………6

2020 横浜スポーツ学術会議の開催について

去る、2020年9月8日（火）から22日（火）にかけて、下記内容で「2020 横浜スポーツ学術会議」が開催されました。いろいろな形で参画された会員の方々、お疲れさまでございました。

■ 会期： 2020年9月8日（火）～22日（火）

■ 参加登録数：1547名（一般・体育学会会員あわせて）

■ プログラム

<Opening Performance>：日本女子体育大学ダンスプロデュース研究会によるダンス映像作品、
国士舘大学空手道部による演武

<基調講演>： Dr. Marianne Meier, University of Biel

<ICSSPE 合同 Yokohama2020 特別セッション>

<スポンサーシンポジウム>：スポーツパフォーマンス向上の為のシステムデザイン

<テーマ別講演>：22題

<テーマ別シンポジウム>：21題

<一般発表（ポスター・口頭）>：1059題

<公募シンポジウム>：15題

<公開プログラム>：

【プログラム1】講演

Prof. Dr. Ming-kai CHIN

“Global “Changes” and “New Directions” in Physical Activity and Health: A Little Less Talk and a Lot More Actions”

【プログラム2】（組織委員会・日本運動疫学会協力企画）

COVID-19 新常态における持続可能なスポーツ・身体活動促進

Fiona Bull 氏（世界保健機関ヘルスプロモーション部局身体活動部門長）

「世界保健機関 身体活動のための世界行動計画 2018-2030」

鈴木 大地 氏（スポーツ庁長官）

「Sport in Life と日本の現状、今後について」

両氏による対談

「スポーツ・身体活動と持続可能な到達目標」

「年報 体育社会学 第1号(2020)」の発刊について

令和2年3月31日に「年報 体育社会学 第1号(2020)」が発刊されました。

- 創刊のことば 水上 博司
- 特別寄稿 菊 幸一
体育社会学の再生を求めて
川西 正志
日本体育学会創設からの70年間の体育社会学専門領域活動の課題と展望
- 原著論文 津吉 哲士・杉本 厚夫
指導者によるスポーツ栄養サポートにおける「科学知」、「生活知」、「経験知」に関する研究：陸上競技マガジンの記事を手がかりにして
張 寿山
スポーツ団体の法人格としての協同組合モデルの検討：英国におけるスポーツ団体の法人格を参考にして
- 書評 関根 正美
「遊び」から考える体育の学習指導 / 松田 恵示
松尾 哲矢
「ハッピーな部活」のつくり方 / 中澤 篤史・内田 良
大沼 義彦
一九六四年東京オリンピックは何を生んだのか / 石坂 友司・松林 秀樹 編
亀山 佳明
武術の身体論 同調と競争が交錯する場 / 西村 秀樹
- 日本体育学会第70回大会報告
- 編集後記 清水 諭

「年報 体育社会学 第2号(2021)」の原稿募集について

—水上 博司 編集委員長より—

コロナ感染防止対策を講じた後学期の授業が本格的にスタートし、皆様におかれましては、対面型・ライブ型・オンデマンド型、そしてハイブリッド型などさまざまな形態での授業に日々追われていることと存じます。

さて、「年報体育社会学」編集委員会では、現在第2号(2021年3月末刊行)の投稿論文の原稿を受け付けております。投稿された論文が2021(令和3)年1月末までに論文審査を終えて採択されれば第2号への掲載となりますが、1月末を過ぎても採択後には翌年の機関誌の刊行(第3号)を待たずにJ-stageへ早期公開し、可能な限り投稿者の研究成果を国内外の研究者に広く共有してもらえよう編集体制を整えております。投稿先を検討中という会員の皆様には、是非とも「年報体育社会学」へのご投稿を検討ください。なお、投稿には締め切りはございません。年間を通じて投稿を受け付けております。

最後になりますが、第2号では2020コロナという激変する社会のなかの体育・スポーツのあり方を考える特集を組む予定で編集作業を進めております。創刊間もない機関誌ではございますが、今後とも会員の皆様からのご支援を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

なお編集委員会には創刊号の残部がございますので、ご入用の方がおられましたら一ツ橋印刷株式会社(担当：渋谷：arspes@onebridge.co.jp)までご連絡ください。

応用（領域横断）研究部会の設置について

標記案件につきまして菊代表、水上会員より情報提供をいただきました。詳しくは下記資料をご参照下さい。

なお、当専門領域からは「スポーツ文化研究部会」に山口 理恵子会員(城西大学)、学校保健体育研究部会に松田 恵示会員(東京学芸大学)、競技スポーツ研究部会に高橋 義雄会員(筑波大学)、「生涯スポーツ研究部会」に菊 幸一代表(筑波大学)と水上 博司会員(日本大学)、健康福祉研究部会に高尾 将幸会員、にそれぞれ参画いただいております。

応用（領域横断）研究部会の設置について

1. 応用（領域横断）研究部会の設置

- ・昨年総会で改正された定款の第3条目的「この法人は、体育・スポーツ・健康に関する学理及びその応用についての研究発表及び専門領域間の連携協力による研究成果の統合化を行うことにより、体育学／スポーツ・健康科学の進歩普及を図るとともに、体育・スポーツ・健康に関わる諸活動を通じた 個人の幸福と公平かつ公正な共生社会の実現に寄与することを目的とする。」の達成をより効果的に進めるために、体育学会が各専門領域を横断して取り組むべき重要な実践的（社会的）課題のフィールドに応じた『応用（領域横断）研究部会』を学会内に設ける。
- ・具体的には、スポーツ文化研究部会、学校保健体育研究部会、競技スポーツ研究部会、生涯スポーツ研究部会、健康福祉研究部会の5つの部会を設ける（各部会が扱うトピックスの例については次頁参照）。

2. 応用（領域横断）研究部会の位置づけ

- ・最初は企画委員会の下部組織として位置づけて活動を行い、2021年に筑波大学で開催される学会大会の結果を踏まえて、今後常設委員会への格上げを検討する。

3. 応用（領域横断）研究部会の任務

- ・主な任務を以下の通りとする。
 - ①学会大会でのテーマ別シンポジウム／研究発表におけるテーマ及び企画内容の決定
 - ②学会大会とは別での一般公開シンポジウムの企画
 - ③プロジェクト研究の企画

4. 応用（領域横断）研究部会の構成メンバー

- ・5つの研究部会それぞれに各専門領域から各1名が参画する（ただし「参画しない」という選択肢も残す）。その際、各研究部会に本特別委員会のメンバー1～2名も加わる。

●新たな研究組織としての『応用（領域横断）研究部会』

部会名称	トピックスの例※
スポーツ文化研究部会	スポーツインテグリティ、スポーツ博物館、スポーツ文化財、武道、舞踊、スポーツ産業、メディア（報道、出版等）、ジェンダー
学校保健体育研究部会	幼保教育、小学校保健体育、中学校保健体育、高等学校保健体育、大学体育(保健とスポーツを含む)、運動部活動、保健体育科教師教育
競技スポーツ研究部会	競技トレーニング、競技コンディショニング、タレント発掘、科学的コーチング支援、競技組織マネジメント、パラ競技スポーツ、コーチ教育
生涯スポーツ研究部会	全世代スポーツ（子供から高齢者まで）、パラスポーツ、レジャー・レクリエーション、地域スポーツクラブ、スポーツ・フォー・オール、SDG's
健康福祉研究部会	健康増進、健康運動、健康度評価、生活習慣病予防、介護予防、スポーツツーリズム

※あくまでも各研究部会の守備範囲をイメージするためのものである。実際にどのような事柄を扱うかは、各部会で相互にコミュニケーションを取りながら議論の中で決めていく。

●応用（領域横断）研究部会_今期の活動計画

	活動内容	スケジュール
1	応用研究部会の趣旨・活動予定の共有	第1回部会(8/29、合同)にて
2	部会長・副部会長の選出	第2回部会（9月、個別）にて
3	各部会で取り組む課題（少なくとも直近3年ぐらいのスパンで）の選定=> 2021学会大会でのテーマ別シンポ案・テーマ別研究発表のテーマ案の検討・決定	10/9まで（進捗報告） #10/17 理事会・総会 11/27まで（最終決定） #12/2 理事会 ※第1回部会で原案について共有
4	2021学会大会でのテーマ別シンポの司会者と発表者の検討・決定 2021学会大会でのテーマ別研究発表の座長の検討・決定	2021/2/19まで #3~4月に大会HPで公開
5	一般公開シンポ・プロジェクト研究等の課題解決に向けた企画案の検討	2021/5/31まで

- 日時 : 11月29日(日) 13:00-15:00

- 開催方法 : オンラインによるライブ配信と、録画後のオンデマンドによる一定期間での配信
※ なお、参加方法の詳細については、後日改めてメールとホームページにて告知致します。

- シンポジウムテーマ : 制度としての「体育」の社会的変容 —対象を見失う(?)「体育社会学」の転機—

- 登壇者 (敬称略、演題は予定) : 原 祐一 (岡山大学)
第四次産業革命と技術革新の中の学校体育の揺らぎ

高井 昌吏 (東洋大学)
メディアから捉えた学校体育のゆらぎ

市井 吉興 (立命館大学)
新たなスポーツの潮流と学校体育のゆらぎ

- 司会 : 高橋 義雄 (筑波大学) ・ 松田 恵示 (東京学芸大学)

■ 趣旨

2016年度から体育社会学専門領域のプレセッションでは、「体育社会学」という研究領域の固有性を再検討するために、「教育」の観点から、「体育社会学」が「誰のため」に「何」を研究してきたのかについて検討を重ねてきた。「学校教育」や「社会教育」という教育作用・教育事象としての「体育」や、その周辺に広がる社会的事象／文化的事象としての「体育」について、社会学的研究が果たしてきた成果と課題についてそれぞれの視点からのご報告をいただきながらの検討であった。

ところで、現在、日本体育学会の名称変更が進められている。そこでは、従来の体育学会で広く使用されてきた「体育」という用語ないし概念の扱いが、一つの論点となっている。これは、「スポーツ」という用語ないし概念との関係からの検討であるとともに、「体育」という用語ないし概念の再検討という側面も含むものである。体育社会学研究領域において、固有の研究対象であるはずの「体育」が揺らぎ始めているという状況でもあるといえよう。

「体育」という用語ないし概念は、「身体(人間)とスポーツを対象とした教育」「近代社会において制度化された教育」「体育という教育を支える研究と人材養成システム」という3つの側面から、特に体育社会学の領域では議論されてきたのではないかと思われる。しかしながら、特にAIやブロックチェーンなどの技術革新や国際化がますます進み、またCOVID-19を経験する現代においてはどの側面にも大きな変化が現れており、その理解やアプローチの仕方も揺らぎ始めているように見える。そこで、本年度のシンポジウムでは、そもそもの「体育」という用語ないし概念、その理解やアプローチの仕方についての揺らぎについて検討することを通して、「体育社会学」のレーゾンデートルを見つめ直しつつ、「体育社会学」は「誰のため」に「何」を目的として営まれる研究であるのかということについて議論してみたい。

評議員選挙（任期：2021年6月-2023年5月）について

1. Web選挙の導入の可否について：3月メールとWebで開催した評議員会にて可決されたためWeb選挙とする。
2. Web選挙導入に伴う費用：9万円程度を予定（2020年度予算案参照）
3. Web選挙導入の場合のスケジュール（案）：

2020年9月末	有権者の確定
2020年10月初旬	有権者名簿をMEC（Web選挙システム会社）へ送付
2020年10月中旬	投票用IDとパスワードを会員へ発送
2020年11月中旬	投票締切り（発送より1ヶ月後程度を予定）
2020年12月上旬	会員に対し、選挙結果の報告
2020年12月末	就任依頼完了
2021年3月	評議員会にて審議・承認

事務局より

1. 会員動向：体育社会学専門領域の会員数は、2020年9月7日現在365名です。
2. 会員情報変更：日本体育学会会員の名簿管理は学会本部が行っております。勤務先の移動、住所・所属などの変更があった場合は、すみやかに「会員情報変更届」（『体育学研究』に添付）を学会本部事務局にFAXまたは封書で送付してください。学会本部とともに専門領域事務局にもメールでご連絡いただくと助かります。
3. 会則および諸規定等の改訂版について：諸規定等の改訂版は、随時専門領域ホームページに掲載していますので、ご確認ください。
4. 専門領域総会について：11月の研究会に合わせて、専門領域会員の総会を予定しております。詳細は後日、専門領域ホームページなどを通じてご連絡いたします。

事務局メールアドレス ykudou@juntendo.ac.jp（工藤）

あとがき

コロナ禍の下、皆さまいかがお過ごしでしょうか？ その影響もあり、今号の発刊も例年より1ヶ月強の遅れとなってしまいました。秋号でお届けします。

規制づくめの日常に疲弊感も増すばかりですが、「明けない夜は無い……」との言葉もあります。体育・スポーツの力を信じて、夜明けを待ちたいと思います。皆さまくれぐれもご自愛下さい

石澤 伸弘（広報委員会）